

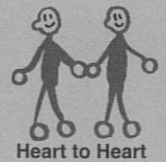
ともしび通信

コープともしびボランティア振興財団

〒658-0084 兵庫県神戸市東灘区甲南町2丁目1番20号(コープリビング甲南2階)

TEL078-412-3930 FAX078-412-3871

発行人=竹本 成徳 編集人=秦 正雄



Heart to Heart

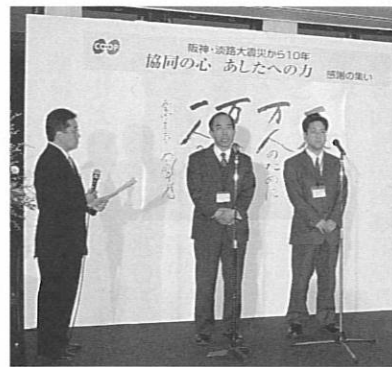
第43号

2005年4月発行

10年前の支援に感謝を込めて

全国生協を招き開催した コープこうべ震災10年行事に参加

1月16日(日)～17日(月)の2日間、コープこうべでは、10年前の阪神・淡路大震災の際、支援に駆けつけて下さった全国の生協のみなさんを神戸にお招きし、感謝と交流の行事を行いました。当財団も、設立にあたっては、全国生協からの支援金を活用させていただいた経緯があり、スタッフとして参加するとともに、1月に発行した当財団の震災10年記念誌「ともしびを



かかげて」を、感謝の気持ちを込めて、全国生協のみなさんに

お渡ししました。

16日は、震災10年記念のフォーラムへの参加の後、協同学院で「感謝のつどい」を開催。10年前支援に来ていただいた方と当時の所属長との再会、また新潟中越地震への支援に向いた職員と新潟県民生協の方との交流など、それぞれが胸に迫る思いでのつどいとなりました。翌17日は、複数のコースに分かれ、当財団は、東灘区から芦屋市にかけての震災メモリアルウォークに加わり、雨のちらつく中、40名近い全国生協の方々と10年目の思いをかみしめながら歩きました。

第5回ひょうごボランティアスクエア21に参加

助成グループとして、元気アップ賞に 「山田の里グリーンクラブ」こつこつ 賞に、「かめのこグループ」が入賞

1月29日(土)～30日(日)、JR神戸駅近くのクリスタルホールで、県下のボランティア、市民団体が集い、元気アップをはかる「ひょうごボランティアスクエア21」が開催され、当財団も実行委員として参加しました。29日には県下のさまざまな団体がステージで活動発表を披露、30日は、これまで積み重ねてきた活動実績やこれからの新規事業をプレゼンテーション審査し、表彰する「アワード」、また、阪神・淡路大震災10周年記念事業として、「みつげよう新しい地域連携!手をつなぐ地縁とNPO・ボランティア」と題したひょうごボランティア・市民活動フォーラムが開催され、会場いっぱい参加者が熱気に包まれました。

アワードの、これまでの活動

実績を評価する、こつこつコースには県内から79件の応募があり、1次審査で16団体が選ばれ、30日当日ステージでプレゼンテーションを行いました。当財団の助成グループで昨年の助成金交流会でもプレゼンテーションされた、弱視児童のための遊具づくりをされている「かめのこグループ」(姫路市)も入賞し参加しました。新規事業への評価を受ける元気アップコースには49件の応募の中から5団体が1次審査を通過、昨年度から当財団が助成する「山田の里グリーンクラブ」(神戸市北区)も入賞し活動披露を行いました。

2005年度 ボランティアコーディネートを学び実践に生かす人のための調査研究助成について

コープともしびボランティア振興財団では、ボランティア活動の振興や地域福祉の向上をはじめ、今後ますます重要性が増すと考えられる市民主体の地域づくりには、ボランティア・市民活動を促進するボランティアマネジメント機能が肝要との認識にたち、昨年10月から、初の試みとして、上記のような調査研究助成をスタートさせました。

これは、兵庫県下在住、在勤もしくは県下で活動する社会人を対象に、「地域に帰って実践に生かす」ことを目的として大学、大学院、専門機関等で、ボランティア学、ボランティアコーディネート、地域福祉、

非常利組織のマネジメント等を学ぶための学費等の支援(助成)を行おうとするものです。しかし、大変残念ながら、初年度の2005年度分については、応募案件を厳正に審査いただいた結果、助成に該当する申請内容がありませんでした。

この助成のミッションである「ボランティア活動をつなぎ、支援し、促進するマネジメント、コーディネートを専門的知識をバックボーンにしながら発揮する人材育成」を大事にしながら、2006年度助成の応募をこの秋からすすめます。